

ニーズレター

発行日 2021年7月16日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

夏号



津田の松原 海水浴場

.....

もくじ

- | | |
|---------------|---|
| ○ 巻頭言 | 2 |
| ○ 総会の報告 | 3 |
| ○ 利用者の声 | 4 |
| ○ 新人ホームワーカー紹介 | 6 |
| ○ 事務局だより | 8 |
| ○ 編集後記 | 8 |

巻 頭 言

第5グループホームと法人の事業

理事長 細谷 要一

2021年度定期総会は、新型コロナ感染防止のために昨年と同様「書面表決・表決委任」方式にて開催され、会員皆様のご理解、ご協力により無事に終了することができました。深く感謝申し上げます。

今年度は第5グループホームを立ちあげることになります。「ポストの数ほどグループホームを」のスローガンの下1998年からグループホームをスタートさせピアーズ百間町（4号館）が開設されたのが2008年でした。

当法人の定款は「グループホームを普及すること」により「精神障害者が住みよい社会を実現する」ことを目的としています。そこからみると、その後12年余り新しいグループホームの開設をしていませんが、決して法人の活動が停滞していたわけではありません。

この間、目的のもう一つの内容である「地域で生き生きとした生活を送れることを支援する」ことを重視して「支援」について議論を重ねてきました。支援する側にとって“楽な”「施設化への誘惑」に妥協しないことや利用者を「可能性のある人」として対等に向き合うこと、そして「利用者が、本来の自身の能力を自覚し発揮できる支援とは何か」など、法人の理念、使命に合致する支援について論じあいその実践を進めてきました。

この期に第5グループホームを開設することになったのは、現場スタッフであるホームワーカーやサービス管理責任者の準備が整ってきたことと、県内に多くのグループホーム（精神障害者の利用可能部屋数は700ほどあるようです）が開設されている中で、法人の支援方針を求めて来られる方が多くなってきていることからです。

法人としては、定款の「事業」に謳われている「我々の考える精神保健福祉を基にその普及啓発、人材育成」を日々利用者と接する現場のスタッフから行いながらグループホーム運営を進めています。

二つ目の「事業」は「障害がある方の地域活動を支援するための諸活動」です。利用者個別の障害者福祉サービス機関や地域活動支援センターとの連携は進んできましたが、今「棲んでいる地域の人々」との交流・活動やその他利用者の多様なニーズへの対応については、これからの取り組みとなるでしょう。

また、「精神保健福祉に関する政策の立案・提言」については、過去に行政の対応が利用者本人をないがしろにして法人職員とのみ進めようとした問題があり、「障害があっても人としての配慮を欠くことがないように」と改善の要望をしたこともあります。そのほかにもグループホームの運営の中から見えてきた法令、行政等の問題を認識しています。これらについては、今後あらためて、論じていきたいと考えています。

総会の報告

2021年度 定期総会を終えて

サービス管理責任者 増田 周作

2021年6月11日（水）午後7時半より、当法人事務所で、2021年度定期総会を開催しました。正会員26名のうち19名の参加（出席・書面表決・表決委任）をもって無事に終了いたしました。

2021年度総会は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、当日の会場への出席を限定しての開催となりました。みなさまのご協力に、改めてお礼申し上げます。

2021年度総会の議案書で取り上げた内容について、整理してお伝えしておきます。

事業報告について

- ピアーズ宮脇の移転についての報告をおこなった
- 2021年度は、新型コロナウイルスへの感染予防対策が大きな課題であり、感染予防対策研修や職員へのPCR検査の実施、会議の開催等もオンライン会議等を利用するなどの対策を実行した
- 個別のコンサルテーションを継続しておこなった。入居者の不要な入院が減ったり、入居者の生活が安定するなど徐々に成果がでてきている

収支決算報告について

- 入居者の増加、入院者の減少、宮脇の移転費用が抑えられたことで、予算に比して黒字となった
- 近年の天災による被害の拡大により、火災保険の保険料が昨年度に引き続き増額となったため支出が増えた
- インターネットバンキングの活用により、振込業務が簡素化され業務の円滑化が図れた

事業計画案について

- 秋頃を目途に、第5グループホームの立ち上げに向けて準備を進めていく
- 引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策をおこなっていく

収支予算案について

- 予算案内の決算額に記載ミスがあり、両監事に相談をおこなった上で、議長判断として総会内で修正をおこない可決となった

利用者からの声

私とピアサポーター

ペンネーム まきまき

私は、数年前に香川県障害福祉課が主催した「ピアサポーター養成講座」の第1回目に参加した。

ピアサポーターという言葉は、なんとなく聞いたことがあるぐらいで「ピアサポーターってどういったものだろう」と興味を持った。ホームワーカーや相談支援事業所の担当者に話したところ、丁度「ピアサポーター養成講座」を開催するという話を聞き、相談支援の担当者に勧められて、参加することにした。

「ピアサポーター養成講座」を受けて、私がしたいと思ったピア活動は、直接会って話を聞いたり、話したりすることで、誰かの支えになりたいと思った。

しかし、養成講座が終わった後に私のところに来た話は、体験談を話して欲しいという依頼ばかりで、自分がしたいと思ったこととは違っていった。

そんな思いを持ちながら、時間だけが過ぎていった。

そんな中、グループホームの運営委員の募集があり、「何かピア活動ができないか」運営委員の人にも聞いてもらえるかもという思いがあり、立候補して運営委員としての活動をはじめました。

また、これまでお世話になったホームワーカーが定年退職となり、代わりの職員が見つかるまでの間、天満理事が春日に来て支援してくれることがあり、そこで天満理事が働いている事業所でおこなっているピア活動について話を聞く機会があった。

そこで、私は実際に活動されている方がどんな風に活動しているのかに興味を持ち、訪問してみることにした。

実際に訪問してみて、ピア活動をしているベテランの方が中心となり、利用者だけで話をおこなっていた。中でもAさんとBさんは県が養成講座をするずっと以前から、ピア活動をされているとのことであった。

活動は、事業所で話をするだけでなく、Aさんの家に集まって話をしたり、海にでかけたり、ドライブに行ったりと色々な活動をしているようでした

私も何かできることはないかと思うのですが、1人では心細く興味がある方に一度集まってもらって、ピア活動について話ができればと思っています。

興味がある方は、ご一報ください。

張り合いを求めて

ペンネーム A

ビアーズ宮脇に入居して、早や4年が過ぎた。

入居当初は若かったこともあり、パートで介護職の仕事に就いていた。

原付バイクでうろうろすることが好きで、丸亀市の産直に行ったり、食事を兼ねてツーリングに出かけていたりもしていた。その頃は今以上に服薬量が多かった。今思うとあの頃は、服薬で気持ちが高ぶっていたのではないかと感じる。今は必要最小限の服薬量で体調は安定している。

入居5年を迎え、ここ数年の生活を振り返ってみると、朝起きてテレビを観るだけの毎日。一日何をして過ごそうか考えては見るものの何も思いつかない。毎日が寂しく張り合いのない生活。このままでは駄目だと思い、何か日中活動をと考え、作業所を数ヶ所見学に行ったがどれも自分に合わないと思った。

そんな生活を送っている中、相談支援事業所から「目的作りとしてピアサポーターになり、ピア活動に参加してみてもどうか」と提案があった。以前からこの話は聞いていてものの「活動といわれても…」と自分の中ではピンとくるものがなかった。しかし心境の変化だろうか、今回は以前提案をしてもらった時より興味が少し湧いた。

「ピア活動とは何か、どんな活動をするのか」知識もないうえにピアサポーターとして活動する自信もなく当初は断り続けていた。しかし今回は以前と違い、ピアサポートを利用したい気持ちが生まれ、生活の中で張り合いを見つけるきっかけ作りが出来たら良いと考えるようになり申し込んでみた。本来ならばピアについて知識を得るのが普通なのだろうが一切調べなかった。自分の性格上「行動あるのみ派」だと思っているからかもしれない。しかし本当のところ、事前に知識を得ることが面倒くさかったのかもしれない。

6月にピアサポーターと実際に会ってみた。最初は緊張していたが女性の方でとても話しやすく、自分と共通の話題もあり親しみを感じた。

ピア活動についての話や日中活動のアドバイスもしてもらい、あっと言う間に時間が過ぎた。また、実際のピア活動の話聞いて「はばたき」という集まりがある事を知り、自分も参加してみたいと思った。参加することでピア活動の新たな一面を知ることが出来るのではないかと感じたからだ。

まだ1回目なのでこれといった変化はない。自分にとってピア活動は、まだまだ未知の世界でもある。定期的に利用する内に自分の張り合いを見つけるきっかけ作りと同時に知識も得られたら良いと思っている。

最近「自分自身がピアサポーターとして活動が出来たら良いなあ」と時々、思うことがある。「自分の中に何かが変わりつつあるのかもしれない」と期待を持ちつつ、ピアサポーターの方に会う日を心待ちにしている。本音を言うと月2回お会いできれば最高なのだが…。

■ 新人ホームワーカーの紹介

支えられて

ホームワーカー 南 孝則

パンデミックとなった新型コロナ、そして度重なる緊急事態宣言は多くの人に大きな影響を与えました。私もその中の一人です。46年間続いた家業の飲食店は休業と縮小を余儀なくされ、新しい仕事を探さなければならなくなりました。しかし私には持病がありフルタイムの就労は難しく、これからの生き方を探していた時、以前よりお世話になっていた鍋谷さんより「グループホームのホームワーカーをしてみないか」と、そして「人の話を聴く力はあるやろ。それを生かせばいい」とお誘いを頂きました。確かに電話相談の相談員の経験は9年程ありますが、対面での相談、また支援と言うものは経験がありません。自分にできるのだろうかと不安を抱えながらも、ホームワーカー(HW)としてビアーズ宮脇で仕事を始めることになりました。

初めてグループホームを訪問した時、入居者の皆さんはとても温かく、そして自然に私を受け入れてくれました。皆さんの笑顔が緊張していた私の気持ちをほぐしてくれました。帰りの車の中で増田サビ管が「皆さんのお話をしっかり聴いて下さい。気持ちを聴く事によって信頼関係ができていきますよ」とアドバイスを頂きました。新人研修の中、HWの仕事に右往左往している私に「頑張ってますね」「いつもはこんな風にしてますよ」「あそこにあるよ」時には「これ食べて下さいね」入居者の皆さんの何気ない声かけに、助けられ支えられました。ある日「入居者さんの気持ちに甘えてばかりいるようで…」と河野サビ管にお話すると「入居者さんは優しいですよ、その優しさに甘えてみてもいいんじゃないですか。そうすることで信頼関係も築けますよ」なんだか心の中が温かくなったような気がしました。

その後も先輩HWの皆さんに助けられ、支えられ、同期のHWとは新人ならではの喜びや困りごとを分かち合い、また理事からは人とかかわることの考え方や気持ちの持ち方のアドバイスを頂きながら私のHWとしての一歩が始まりました。本当のところを言うと、まだまだHWが何なのかは解っていません。入居者の方も体調の良い時悪い時があります。いろいろと困難な場面にも出会うでしょう。入居者さんのために望まれる支援ができるのだろうかと不安な気持ちもあります。ただ、今思う事は「入居者さんの話をしっかり聴き、その気持ちに寄り添いながら伴走者として進んでいきたい」と言うことです。まだまだ学ぶところがたくさんありますが、皆さんの力に支えられながら、HWとして自分なりに頑張りたいと考えています。

ホームワーカーになって

ホームワーカー 滝 扶美

はじめまして、滝 扶美と申します。4月5日に入職し現在は主にビアーズ春日のホームワーカー（HW）として研修の日々を送っています。この Newsletter が発行される頃には、無事に研修が終わって、正式にいずれかのグループホーム（GH）に配属先が決まっているかと思いますが、今は希望と不安に胸を膨らませているところです。

12年前、友人の誘いで福祉の仕事に就いた私は以降ずっと、障がいのある子どもたちが通うデイサービスで働いてきました。心機一転、新しい仕事に飛び込んでみたものの、GHのホームワーカーとしての仕事、精神保健福祉の仕事、大人の方への支援を主とすること、NPO法人という組織体制などなど、初めての経験、慣れない環境、分からない用語・制度に、戸惑いと迷いと新鮮な驚きの連続です。しかし、そんな私の気持ちを察して「大丈夫？無理してない？」と先に声をかけてくださる理事や先輩方「一緒に頑張りよう！」と励ましあえる同期入職のHW、そして何より、毎日温かく接してくださる入居者のみなさんの存在が「これから頑張っていこう！」と私の背中を押してくださっています。

ビアーズ春日の前任のHWさんは、13年間勤められた方だと聞きました。共同部屋のあちこちに、その方と入居者さんが築かれた思い出と歴史が形としても残されています。そんなところにやってきた頼りない新人HWの私に、入居者のみなさんはさぞ複雑な思いを抱えておられることだろうと思って、ある日、ある入居者さんに、前任のHWさんはどんな方だったのかと尋ねたことがあります。そこで教えられたのは、とても明るく快活で親しみやすいという、私とは真逆のようなお人柄でした。ガツンと頭を殴られたような衝撃で、どうしたら私もその方のようになって、その方が築かれていた「ビアーズ春日の雰囲気」を踏襲できるだろうかと、気づけば真剣に悩み相談をしていました。するとその入居者さんは笑いながら「いやいやそれは無理だし、滝さんは滝さん流でいいじゃないですか」と言ってくださったのでした。私を私のまま受け入れてくださることばでした。

「わたし流」とは何か。まだまだ全然わかりません。HWは何をすればいいのか？みなさんはHWが何をしてくれることを望んでいるのか？

私が法人の採用面接を受けた時、履歴書の志望動機欄に、「滝さんがいるとなんとか安心と思ってもらえるHWになりたい」と書きました。わたし流を探しながら、みなさんと共に、これから進んでいこうと思います。至らないところばかりの私ですが、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

事務局だより

事務局 岩佐 亜紀

テレビをつけると、新型コロナ関連のニュースで今日の香川県の感染者数と全国のグラフを確認するのが日常となりました。現在有効と思われるワクチン接種ですが、高齢者に続いて、6月18日には当法人にも「基礎疾患を有する方」「障がい者支援施設等従事者」への優先接種の案内が来て早速申告し、すぐに全員の接種券が届きました。入居者の方の中には、接種に不安やためらいのある方もおられたようで、強制ではありませんが、優先接種の機会を生かせたらと、ホームワーカーから入居者の方に声掛けをしてもらっています。スタッフも時期をずらして7~8月中旬に順に接種の予約を取りました。日々入居者の方に接する立場として、やはり可能な限りの予防対策を早期に取れば、それだけ安心して働くことができます。

病院内外で接種を担当してくださる医療関係者の方々、そして私たちを優先して順番を譲ってくださっているの方々、皆様に改めて感謝です。ワクチン接種によって国内全体の状況が収束することを願いつつ、今後も気を緩めることなく、全員で協力して感染予防に配慮して参ります。

編集後記

巷では新型コロナウイルスの接種率や接種対象者が毎日のように聞こえてきます。そのような中、私は副反応が怖くてワクチンを打つのを躊躇していました。打って死ぬより打たずに死ぬ確率が高い、打つべきだという周囲から声に動かされて意を決して接種を受けました。

あれほど不安に思っていたけど、注射は痛くもなく「えっ、もう済んだのですか」というぐらい、あっけなく終わってしまいました。心配した副反応もなく、今はこれで他人にうつすことや、また自分が罹患する確率が少なくなったことでほっとしています。あとは新型コロナウイルスが早く収束することを願うばかりです。

(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955